

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700113		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム たきの憩		
所在地	三重県多気郡大台町上真手405		
自己評価作成日	令和3年2月7日	評価結果市町提出日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2492700113-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2492700113-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年3月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、広々とした空間が特徴の施設です。一年を通し季節を感じていただけるよう環境整備や行事に力を入れ取り組んでいます。また、地域との繋がりを大切に行事を通じて地域住民との交流や触れ合いの場が持てるよう支援させていただいています。利用者様一人ひとり、尊重した暮らしが出来るように生活歴の把握、思いや意向の把握に努め、いつも明るく笑顔の絶えないホームでありたい。という思いを共有し、それぞれの役割を大切にしながら、生き活きと生活が送れるように職員一丸となって取り組んでいます。前回の課題であります「運営推進会議での内容に地域の問題を取り入れていく」につきましては、コロナウィルス感染予防の為、運営推進会議が出来ていないため、引き続き課題として取り組んでいきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流宮川を望む山間集落の中に事業所は立地している。山間部ならではの地域との交流に重点を置き、自治会等の行事に積極的に参加し地域の一員として交流しているが、コロナウィルス感染症対策の為、今年度は行事が中止及び延期になっている。その中でも利用者一人ひとりの尊重とプライバシー配慮に心掛け、家庭的な雰囲気の中で利用者が個々に自分のペースで楽しく生活している姿がみられる。また職員は、一つでも多くの笑顔の花が咲くように、家族とサポートを必要としている方の気持ちを大切に、利用者が希望する生活を可能にするように取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、出勤職員全員で朝礼を行い、最後に理念・心得・接遇を唱和し、共有してから業務に取り組んでいる。	朝礼、ミーティング時に理念を基に支援を振り返り、職員間で話し合い、共有している。常に利用者の状態を見ながら、個々に合った対応をしている。また利用者に安堵感と笑顔が見られるような支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルス感染防止の為外部との交流は一時中止をしている。	穏やかな山間地で散歩時に近隣の方と交流し、野菜等の差し入れをもらっている。今年はコロナ禍で出来ていないが地域の祭り等の行事には積極的に参加したり、事業所のイベントには来訪して頂き、地域との交流は大切と思っている。コロナが終息すれば再度行いたいと前向きである。	コロナ禍で地域とのつながりが少なくなりつつある。事業所が孤立する事無く、地域から受け入れられ普段の暮らしの中でさらに隣近所の人々との関わりを持ち、コロナ終息後に向けて思案される事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	情報交換会に参加をしたり、役場、地域包括支援センター、他事業所と共に協力体制を築いている。地域の方々については、コロナウィルス感染予防の為交流は一時中止をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は2か月に1度運営推進会議を開催しているが、コロナウィルス感染予防の為中止をしている。議事録は送付している。	事業所の運営状況の報告を行い、参加者から活発な意見が出て、有意義な会議となっていた。出された意見は全職員で検討してサービスの向上に活かしていたが、コロナ禍で職員のみ参加で開催。議事録は各構成員に郵送している。今後報告に関しての意見を頂きたいと思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者と常日頃より電話などで密に連絡を取っており、連携協力体制が取れている。普段から関係作りが構築されている。	コロナ感染症予防について指導してもらったり普段から連絡を取り合い、意見や新しい情報を頂き協力関係は築けている。地域包括主催の情報交換会や勉強会での交流を希望しているがコロナ禍で出来ていない。	コロナ禍の日常である為、事業所も市町も試行錯誤しながらより良いサービスの在り方を模索する必要がある。利用者の暮らしぶりを市・町に伝えて(ズーム会議等)さらに連携を深め、情報の共有を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々身体拘束を行わない意識を持ち、業務に取り組んでいる。又、全体会議の中でも勉強会を行い、職員全員で身体拘束ゼロに取り組んでいる。	職員は「身体拘束をしないマニュアル」を常に意識し支援に取り組んでいる。定期的に職員研修も行い、特に言葉の拘束には、お互いに注意をしい拘束のない支援が出来ている。事例検討会を実施する事で職員の身体拘束防止意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議での場でも勉強会を行い虐待防止に取り組んでいる。又、ニュースや新聞などで取り上げられた時には朝礼で詳細の説明や注意点等共有を行い虐待防止に対し啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用しているご利用者様はいないが、ご家族様から質問などがあった場合は対応できるような支援体制を整えるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書とともに口頭で読み上げ十分に理解して頂けるよう具体的例等を交えて説明を行っている。また変更等があった場合にはご家族様に連絡を行い説明の場を設け同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様から頂いたご要望、相談は対応した職員が指定の様式に記入し、施設での対応、解決ができる様努め、内容によっては法人での対応も行っている。	「要望・相談ノート」があり対応した職員が記入し、その都度施設での対応や、法人での対応を行っている。毎月発送している「たきの通信」を読んだ家族から「健康状態を細かく記入して頂き安心できる」との意見を頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の際にも意見を聞く機会を設けている。又、普段から職員の意見に耳を傾け業務の改善や修正に取り組むよう心掛けている。意見は本部に必ず伝えている。	職員は、毎月のユニット会議や職員会議で意見や要望を伝えている。年4回の管理者との個人面談では意見を伝える事が出来、事業所の運営に活かしている。物品の購入や支援の検討が多く、速急に対応している。炊飯器の購入提案は、即対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネージャー、看護師等各種研修の実施や各種資格手当の支給、講座受講料の免除など職員のスキルアップ支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人、管理者、リーダー研修等を実施。施設内では全体会議の中で勉強会を実施し、職員の質の向上に努めている。外部に於いても勉強会や情報交換会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や情報交換会、行事を通じ他事業所との交流の機会を持ち、いつでも連絡が取れ、意見交換ができる体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時間を設け、ご本人様の意向を伺い、不安や悩み、思い等を傾聴し良好な関係作りに努め、少しでも不安を取り除き安心して入居して頂ける様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時間を設け、ご家族様の心境やこれまでの苦悩等傾聴し、思いを共有する事でご家族様、施設側が共に協力し、ご利用者様の支援が出来るような協力体制作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様との事前面談を設け双方の意向を把握すると共にサービス内容の提案、協議を行い必要があれば役場、地域包括支援センターや、他事業所等への相談も含め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の希望やできる事を把握し、日常における生活の手伝いや得意な仕事を共にに行い、家庭に近い関係が築ける様取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、ご本人様とご家族様の絆が途切れない様定期的な連絡を行って情報共有を図り、ご家族様と一緒にご本人様の支援内容を検討し、双方が同じ思いでご本人様を支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については、コロナ感染予防の為中止となっているが、窓越しでの面会、手紙や電話等 本人様の希望に応じて対応をおこなっている。	コロナ禍で面会制限を実施している為、職員及び関係者が利用者、と共通の話題(大台町のビデオ鑑賞等)を多く話し合い馴染みの関係継続が行われている。また感染予防に気を付けながら馴染みの病院受診のみ、家族と外出する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様個々の好みや性格を把握した上で、1人1人が楽しく生活できる様座席やテーブルの配置、レクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても他のサービス利用や、悩み、相談等があればできるだけ要望に応えられる様努めており、これまで培ってきた関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のささやかな会話やヒヤリングの中からご利用者様の思いに耳を傾ける様に心掛け、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	家族から傾聴した生活歴や日々の会話、表情から思いや意向を判断する様に努めている。またコロナ禍で窓越し面会ではあるが、家族から希望を聞き申し送りノートに記入し、ユニット会議で話し合い職員間で共有して、個々に合った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に協力して頂き、ご本人様の生活歴や生活環境、趣味趣向等の情報収集に努めている。また日々の日常会話の中でも情報収集を行ない、新しい情報は職員間で共有する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、会話や表情などからその日のご本人様の心身の状態を把握し、柔軟な対応で個々の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前にはご本人様、ご家族の意向を聴取し、職員全員でサービス内容を検討し、より良い方向になるよう作成にあっている。	介護・看護記録、支援経過はアイパットで管理している。管理された家族や関係者の意見を参考に、担当者を中心に毎月モニタリング。担当者会議で検討し、計画作成者が介護計画を作成している。関係者の意見を反映し現状に即した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や小さな変化、気づきも記録に残し、申し送りで情報共有している。また、その記録も参考にし、サービスの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助については、コロナ感染予防の為ご利用者様やご家族様の状況に合わせて施設で可能な限り対応を行うように勤めている。買い物等の外出支援は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事でボランティアの活用や、各事業所主催の催し物に参加させていただいたが、コロナ感染予防のため外部の人との接触は中止している。施設内で毎月イベントを行い楽しんで頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様、ご家族様の意向もふまえ通院、薬などの負担軽減を図るため施設提携の主治医への移行案内もやっている。専門医や馴染みのかかりつけ医に関しては関係が継続できる様情報提供を行い支援をおこなっている。	入居時に本人・家族の意向を確認し、利用者全員がかかりつけ医を協力医としている。協力医に月2回訪問診療を受け24時間、緊急時にも対応が可能である。看護師も配置され情報提供も充分されている事から、安心して医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は、介護記録、申し送り等ご利用者様の状態を把握し、介護職員と情報共有、意見交換を行う事で処置や受診などご利用者様に対して適切な対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、面会を行い病院関係者から状態徴収すると共に担当者と密な連携を取れる事で早期退院に向けて取り組んでいる。現在は電話連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針の説明を行っている。また、入居後もご本人様の状態に合わせて、その都度ご家族様と共に対応を協議している。必要時には主治医による相談、説明の場も設けている。	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を、本人・家族に説明している。その上で関係者が方針を共有し、希望に添った看取りを行っており、昨年3名の看取りをした。また職員の研修体制も運用マニュアルに基づいて本社からのオンライン受講で、前向きに取り組む事が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時においては、勉強会を開いて適切な対応ができるよう取り組んでいる。また、主治医、看護師、管理者、リーダーへは24時間連絡可能となっており、適切な指示が受けられる様体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や地震に対する対策検討などを実施している。また、行政に相談、助言を頂き、対策に努めている。地域消防団とも連携をとっている。	今年度は、コロナ禍で地域と協力しての防災訓練は実施出来ていないが、消防署の指導で、災害時の救命処置の流れ(心肺蘇生法、止血法、AEDの使用方法等)を受講し災害意識を高めた。今後地元消防団を含め地域住民との合同訓練の実施に向けて前向きである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様個々の性格を日々把握する様努め、個々に合わせた話し方や接し方を状況に応じて柔軟に対応し、個人を尊重し、尊厳に配慮できる様に努めている。	利用者の気持ちを大切に考え、大台町地域の言葉を使い、さりげない支援に取り組んでいる。また日々支援をする中で、特に言葉使いには気を付けプライバシーを損なわない様な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中でご利用者様の思いを傾聴し、出来る限り希望が叶えられる様対応している。また、職員側が一方向的に決めるのではなく必ずご利用者様に確認し、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生命にかかわる事や医療的に必要なことを除き、基本的にはご利用者様が過ごしたいように過ごして頂けるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪など定期的に支援し、清潔な身なりで過ごせるよう努めている。またご自身での対応が難しい場合は本人様の身体的状態や季節などに合わせた適切な身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューは食堂の見える所に掲示し、楽しみの一つとなっている。また職員と共に盛り付けなどの参加して頂く事も重要な役割の一つとなっている。	法人栄養士が食事の献立を作り、各事業所で利用者の好み等を配慮して調理している。利用者の出来る事(野菜切り・下膳・御膳拭き等)を職員と一緒にいき、個々の助け合いに参加する事が、「生きがい」「遣り甲斐」になる様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリーなど配慮されたメニューを提供しつつご利用者様個々に合わせ、食事形態や量を調整し、その日の状態を確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に声掛けや誘導を行い、口腔ケアの実施を促し、必要な方には支援を行なっている。口腔内の不具合についても度歯科往診時に相談、対応を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、毎月歯科医師より講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位がとれる方はトイレ誘導行い、座位がとれる方はベッドからポータブルトイレに移乗して頂き、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	アイパット管理の排泄記録表で個々の排泄パターンを職員が把握し、トイレ誘導をする事により自立を促している。また能力に合わせて自立を促す事で、失敗が少なくなり利用者の笑顔が多くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝申し送りで排便状況の情報共有を行い、排便状況に合わせて医師の指示のもと対応を実施している。日頃より便秘解消に向けて身体を動かす機会を取り入れるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴日と合わせ希望時や必要時にも出来る限り対応できるよう努めている。又、順番や時間などの個々の習慣などに配慮しながら気分良く入浴して頂くよう支援を行なっている。	基本週2回の入浴支援を行っているが、本人の希望により随時の支援も行っている。入浴剤・柚子湯・菖蒲湯等で季節感を味わい、介助職員との会話を楽しくする有意義な時間となっている。大浴場で仲の良い利用者同士で入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴などの必要最低限以外は基本的に個人の習慣に合わせて自分の時間を過ごして頂いている。又、その為の環境も整えるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書はファイリングし、いつでも情報収集出来るようにしている。又、服薬の変更があった場合は、その都度申し送りで伝え、記録に記入し情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや能力に配慮して家事などの役割を担って頂き、日々の生活に張りや、満足感を感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出支援は中止しているため、施設の中庭を使い散歩やお花、野菜などを育てたりと出来る限り支援を行なっている。	暖かい日には中庭に出て山や茶畑を眺め、移り変わる四季を満喫している。コロナウイルス感染症対策で外出が自粛される中でも、自然に囲まれた環境に恵まれ、外気浴を兼ねての外出支援に努めている。近隣の人々の協力で茶摘み体験をし、お茶作りをして思い出を作った。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様、ご家族様の希望や同意を頂いて個別に所持している方もいる。又、通院時や外出時などに金銭の支払いができる様個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は基本的に自由にして頂いている。その際必要な支援は個々に合わせ行っている。又、ご利用者様、ご家族様それぞれの事情に配慮して個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを行う事で季節を感じていただけるよう支援している。又、昼夜ともに空調や照明の調整を行い過ごし易い環境整備に努めている。	コロナウイルス感染症予防の為、掃除・消毒・室温・湿度の調節、エアコンにウイルス除去対策施行、時間を決めて換気を行い健康管理に気を付けられた空間である。また光が差し込み明るくて開放的な雰囲気での共用空間で利用者は、思い思いに過ごしている姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは気の合うご利用者様同士が互いに同じ時を過ごせるように配慮し、ソファや個別スペースを設けることで一人の時間や、くつろげる時間を持てるよう環境整備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れた物品などを設置することで自宅と同じような環境で過ごして頂けるよう配慮するとともに認知症状や身体能力に合わせて安全面での環境整備も行っている。	馴染みの家具や生活用品を持ち込み、使い慣れた物を活かして、居心地良く過ごせる工夫がされている。掃き出し窓で自然の光が入り明るく、山や茶畑の景色を眺めながら四季を感じ、ゆっくりと寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々が自主的に取り組めるように掲示物を工夫したり、環境を整える等自立支援に取り組んでいる。		